

KANNABE MARATHON 兵庫神鍋高原マラソン全国大会 START

4,694人が力走 兵庫神鍋高原マラソン全国大会



8月30日、第30回記念兵庫神鍋高原マラソン全国大会を、県立但馬ドームを発着点とする神鍋高原周回コースで開催しました。

今回は、アトラランタオリンピックの5千メートル競技で4位入賞を果たした志水見千子さんをゲストランナーに迎え、申込者総数5,025人(招待選手25人含む)のうち、4,694人のランナーが種目ごとに出走し、高原のさわやかな風を感じながら、各コースを駆け抜けました。

ランナーや会場に訪れた応援者らは、ふんだんに用意されたスイカやプチトマト、ニジマスの塩焼き、但馬牛のバーベキューなどを味わったり、ニジマス釣りやつかみ取り、バンザイコーナーなどのアトラクションを満喫し、すがすがしい夏のひとときを過ごしていました。

《問合せ》スポーツ振興課 21-9023



まちづくりと人づくり

この大会は、第11回から実行委員会体制に変わり、住民ボランティアと行政が一緒に進めてきました。

住民と行政の意見が一致したのは、「まちづくりと人づくりをしていこう」ということでした。

住民が選手として大勢参加するだけではなく、世話をしているというものです。

第11回大会では、スタッフが450人でしたが、第12回600人、第13回800人、第14回は1千人を超えました。これは、スタッフ一人ひとりが仲間い声を掛け合い、輪が広がったものだと思っています。

平成11年に県立但馬ドームを発着点とするコースになるまでは、栗栖野グラウンド周辺で開催でした。そのため、テント50張りを集めて張るのが大変でしたが、多くのスタッフの協力があり、無事大会を運営することができました。

大会には、スタッフのみんながアイデアを持ち寄り、考えたいいろいろな企

大会を支えてきたスタッフが語る



画があります。

1つ目は、写真コンテストと販売です。走っているランナーは自分で自分の写真を撮ることができないため、自分の写真がありません。そのため、写真部を設け、ランナーの写真をいっぱい

賞できなかったランナーや応援者らも表彰台に上がることができ、会場のみんなと一緒にバンザイをします。その写真を撮り、その場で差し上げるので笑顔の輪が広がります。

そのほか、取組賞として、70歳以上の

男性と60歳以上の女性のランナー全員に賞状を渡しています。渡すときには「来年も元気でおいししましょう」などと声を掛けて交流を図っています。

飯田 清さん
(日高町名色)

スタッフは、来場者と会話を交わし、ふれあうことが大事ということをよく分かっています。多くのボランティアスタッフの支えがあるからこそ成り立っている大会であると思っています。

水田 巖さん
(日高町東構)

大会が終わると、すぐに来年の大会のことを考えていますが、一人でも多く、大会にスタッフとして、参加いただけるよう、「スタッフも楽しめる、来年もいかに」を合言葉に頑張っています。ぜひ、来年はスタッフとして、一緒に神鍋高原で楽しみましょう。

スタッフも楽しむ

大会の主な経緯

- ・昭和54年 県走友会主催の六甲縦走大会が道路使用の関係で開催が困難になり、県内でアップダウンのある神鍋が翌年開催の候補地に決定
- ・昭和55年 県走友会と神鍋観光協会、日高町教育委員会が主体で、第1回大会を栗栖野グラウンド周辺で開催。神鍋高原スイカサービ
- ・平成2年(第11回) 日高町も主催者となり、実行委員会体制で開催
- ・平成3年(第12回) 写真コンテスト開始
- ・平成5年(第14回) バンザイコーナリー開始
- ・平成9年(第18回) 神鍋周遊公園を使用したクロスカントリを導入(第19回まで)。ハーフマラソンを廃止。土・日曜日の2日間開催
- ・平成11年(第20回) 県立但馬ドーム発着コースへ変更。ハーフマラソン復活
- ・平成13年(第22回) 団体の部導入
- ・平成17年(第26回) 市町合併により、日高町から豊岡市に変わり、大会を継続
- ・平成20年(第29回) 申込者総数は過去最多の5,763人
- ・平成21年 第30回記念大会を開催。申込者を5千人先着順に限定